



世界のお金の行き先：所有から体験へ、そしてその先へ

2026年 経済の羅針盤と「小作農化」の構造的リスク

エグゼクティブ・サマリー（本レポートの3つの視点）



現状分析 (The Global Shift)

世界4極の消費トレンドと、
3つの未来シナリオが
引き起こす「ドミノ倒し」



未来への警告 (The Structural Warning)

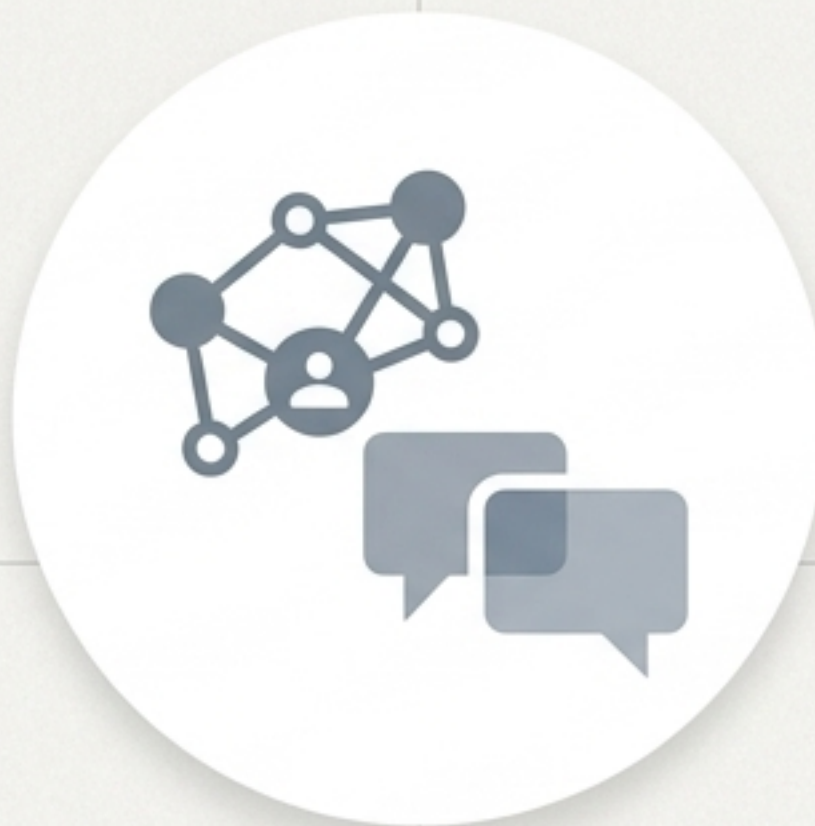
「持たないこと」は真の自由
か。所有権の喪失がもたらす
4つの**構造的リスク**



小作農化メーター (The Personal Reality)

マクロなパラダイムシフトが
個人の財布に直結する
「**年貢率**」と機会費用の可視化

消費パラダイムの変遷



～2000年代

「所有」がステータス

モノを持つことが豊かさの象徴であった時代。

2010年代～

「体験」とSNSの時代

スマホの普及により「モノより思い出」へ。承認欲求のデジタル化。

2026年現在

「生活防衛型・一点豪華主義」

物価高の中、日用品は切り詰めつつ、絶対に譲れない「1点」にのみ資金を集中させる心理が世界共通で加速。

世界4極の消費マトリクス

日本 (Japan)

訪日消費と推し活の双璧

9.4兆円 & 4.1兆円

2025年訪日消費 9兆4,559億円 (4,268万人)
推し活市場 4.1兆円規模

米国 (USA)

「K字経済」の加速

2x Growth

株高・不動産高の資産効果。
中間層以上の支出が富裕層の2倍のペースで成長。

中国 (China)

コスパから「感情」へのシフト

4.5兆元

性价比（コスパ消費）から情价比（感情経済）へ。
2026年市場規模 4.5兆元（ゲン）。

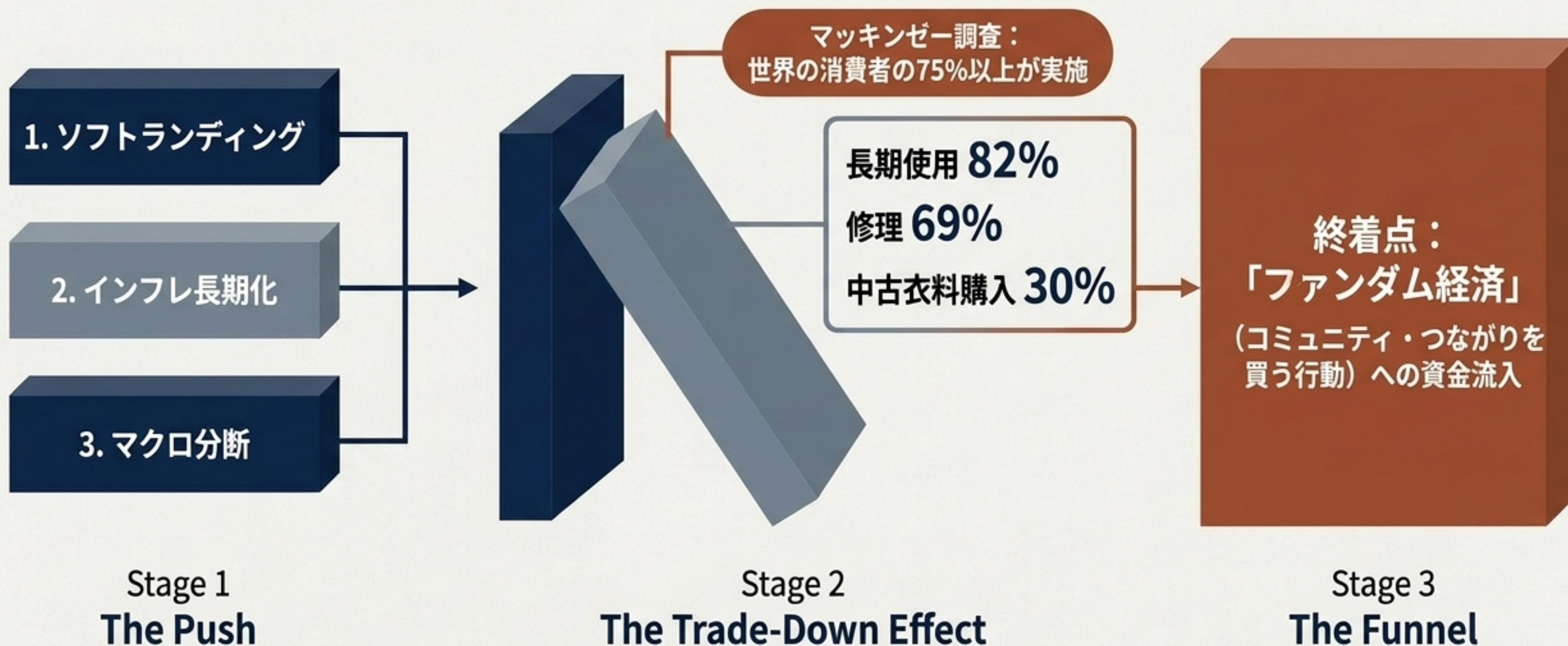
EU (Europe)

試練の中の「本物志向」

▲20%

訪欧観光消費は前年比 ▲20%（2月時点）と
苦戦する一方、文化・歴史体験への投資は根強い。

3つの未来シナリオと「ドミノ倒し」



2030年、あなたは何も所有しない。 しかし幸せになる

— イーダ・オーケン（デンマーク政治家 / 2016年 世界経済フォーラムへの寄稿エッセイより）

思考実験としての補助線

これはWEFの公式な政策方針や秘密計画ではありません（ロイター等のファクトチェック機関により否定済）。本レポートは陰謀論を推奨するものではなく、このエッセイが提示した「パラダイムシフト」を客観的に考察するための起点とします。

「持たないスマートさ」に潜む4つの構造的リスク



買えない過酷な現実

「持たないスマートさ」は、実はインフレにより「物理的に買えなくなった現実」の裏返しかもしれない。



デジタル小作農化

便利なサブスクリプションが、資産を蓄積できないまま毎月資金を吸い上げられる構造を生む。



感情経済への逃避

推し活や情价比（感情経済）は、リアルな資産（家や車）を手放した人々のユートピアになりつつある。

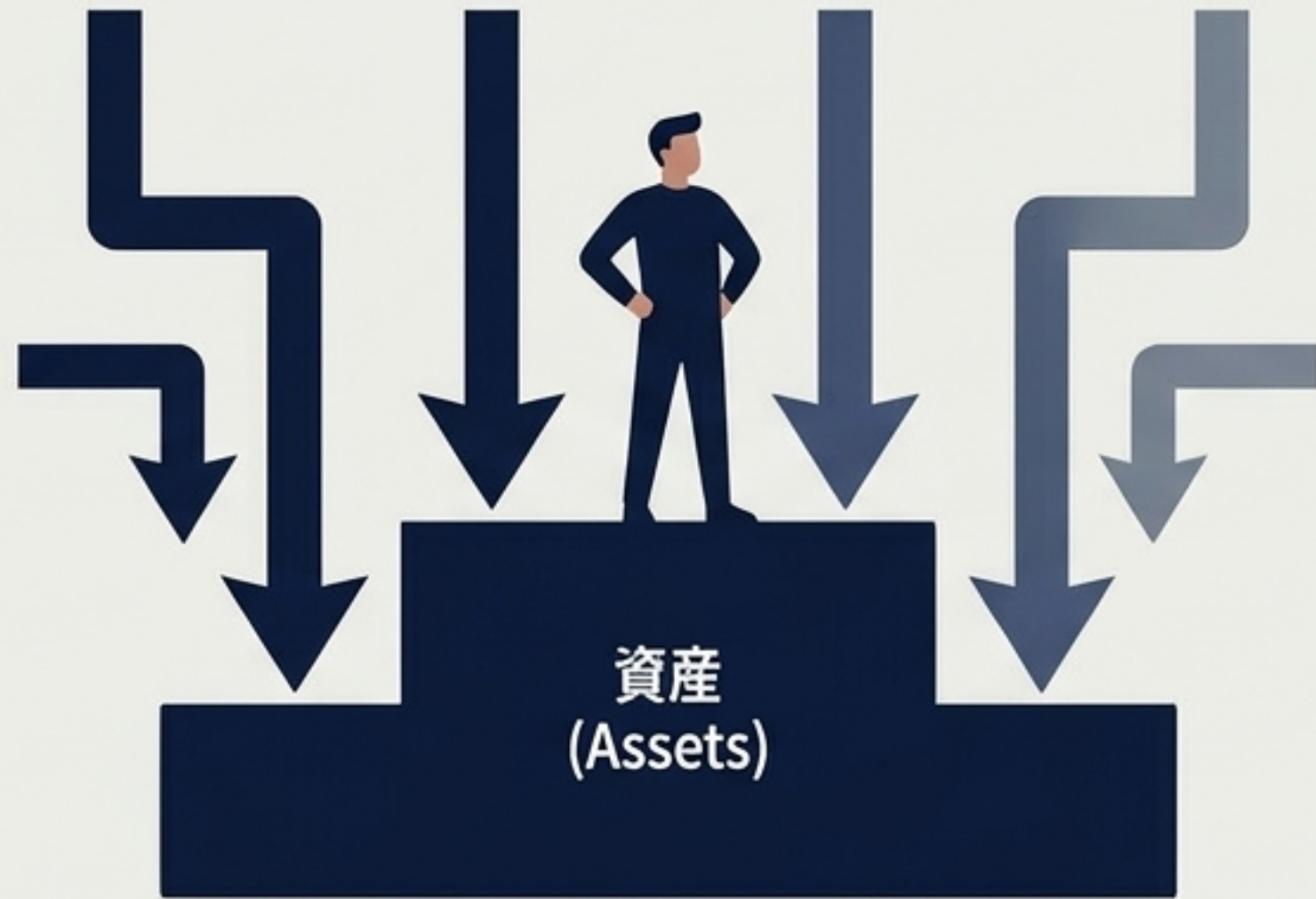


10年後の資産格差

「所有しない」ことで浮いた資金を再投資に回せるか否かで、未来の資産形成に致命的な分岐が生じる。

概念解剖：「デジタル小作農」とは何か？

所有権（エクイティ）の蓄積



デジタル小作農（持続的な搾取）



「所有権（エクイティ）を持たず、利用権のために毎月プラットフォームに支払い続ける状態」。
少額の支払いが巨大資本へ持続的に吸い上げられる構造。

小作農化メーター：「年貢率」の算出

$$\begin{aligned} & \text{[毎月のサブスク合計額]} \div \text{[手取り月収]} \\ & = \text{小作農化メーター} \quad (\text{年貢率}) \end{aligned}$$

国内平均

サブスク支出 2,659円 / 月
(平均保有数 2.3個)

市場規模

約9,430億円
(前年比 +5.2%拡大中)

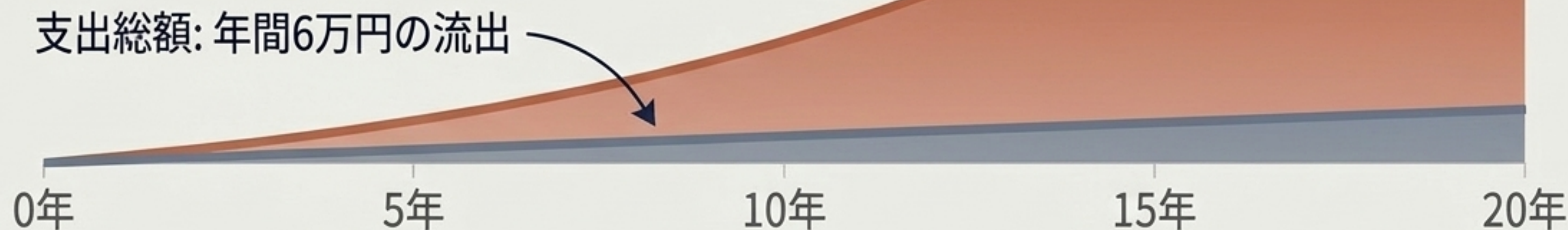
隠れたコスト：複利の機会費用



【試算シナリオ】

月5,000円（手取り25万で年貢率2.0%）
を支払い続けた場合

約260万円の機会費用



パーセンテージは低くとも、複利によって失う時間は巨大である。

10年後の資産格差：未来の分岐点

「感情・体験への全振り」

浮いたお金をすべてサブスクや推し活（情价比）に消費。

結果: 豊かな体験を得るが、実物資産を持たない「永遠の利用者」。



「再投資による自己資本化」

持たないことで浮いた資金を、資産形成（エクイティ）へ再投資。

結果: 資本の集約側に回り、経済的独立を確保。

パズルの完成：2つの視点

真に合理的で スマートな進化

初期費用ゼロで、本来手が届かない高価なサービスや体験へ瞬時にアクセスできる圧倒的な効率性。



資産なき支配と 資本の集約

所有権を放棄させ、国民の資産形成を妨げながら巨大プラットフォームへ富を集中させる構造的シフト。

どちらの解釈を取り、どちらの未来へ進むか。データを見つめ、さらなるディープダイブへ。

免責事項(Disclaimer)

- 本資料は、公開されている情報に基づく独立した分析・研究目的のコンテンツであり、投資助言や政策提言を目的としたものではありません。
- 特定の陰謀論を推奨するものでも、特定の未来を断定するものでもありません。中立・不偏の立場で作成されています。
- シミュレーター（小作農化メーター）の試算結果は簡易モデルによる目安であり、個々の家計の実際の負担や将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本スライドはAIツール（NotebookLM等）による自動生成を活用して作成された独立コンテンツです。